

つむぎ通信

vol.13

在宅連携センター「つむぎ」

TEL/053-451-2807 FAX/053-451-2808

✉soudan@hamamatsucity-medical-co.jp

在宅連携センターつむぎ浜松

検索

在宅連携センターつむぎは、高齢者を支える医療・介護・福祉関係者の相談窓口として、2015年度に開設しました。「つむぎ通信」は2019年度から在宅連携センターつむぎの周知と情報発信のため発行しています。バックナンバーは[ホームページ](#)からご覧ください。→
<https://www.hmedc.or.jp/tsumugi/information/>



在宅医との意見交換会を開催しました



つむぎでは、年に1回、浜松市医師会、浜松市浜北医師会、浜名医師会、引佐郡医師会及び磐田医師会で在宅医療に携わる医師間の情報共有と連携のため、意見交換会を開催しています。

今年度は10月31日に浜松市役所で開催し「在宅医療・介護連携の現状と課題」をテーマとし、医療・介護連携、地域医療、訪問診療の現状や課題、新型コロナウイルスへの対応及び各医師会での活動状況等について意見交換を行いました。



医療療養病床とは・・・

入院のための病床は、医療法により5つの種類(一般病床・療養病床・精神病床・感染症病床・結核病床)に分類されています。

療養病床は急性期の治療を終えて、慢性期の治療を要する方を対象としています。

ポイント

- 医療保険を適応
- 長期療養が目的
- 医療依存度の高い方が入院対象



療養病床は医療区分により、入院対象者が制限されています。

不明な点は、気軽に相談してほしいのじゃ。



医療区分

医療区分3	<p>【疾患・状態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スモン・医師及び看護士により、常時監視・管理を実施している状態 <p>【医療処置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間持続点滴・中心静脈栄養・人工呼吸器使用・ドレーン法・胸腹腔洗浄 ・発熱を伴う場合の気管切開、気管内挿管・感染隔離室における管理 ・酸素療法（酸素を必要とする状態かを毎月確認） 	医療療養病床対象者
医療区分2	<p>【疾患・状態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋ジストロフィー・多発性硬化症・筋萎縮性側索硬化症・パーキンソン病関連疾患 ・その他の難病（スモンを除く） ・脊髄損傷（頸髄損傷）・慢性閉塞性肺疾患（COPD） ・疼痛コントロールが必要な悪性腫瘍・肺炎・尿路感染症 ・リハビリテーションが必要な疾患が発症してから30日以内・脱水かつ発熱を伴う状態 ・体内出血・頻回の嘔吐かつ発熱を伴う状態・褥瘡・末梢循環障害による下肢末端開放創 ・せん妄・うつ状態・暴行が毎日みられる状態（原因・治療方針を医師を含め検討） <p>【医療処置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透析・発熱又は嘔吐を伴う場合の経腸栄養・喀痰吸引（1日8回以上） ・気管切開・気管内挿管のケア・頻回の血糖検査 ・創傷（皮膚潰瘍・手術創・創傷処置） 	
医療区分1	医療区分2・3に該当しない者(要介護認定が必要)	介護医療院対象者

相談事例Q&A～相談内容を紹介します～



- Q** → 吸引が頻回になり、在宅療養が困難になってきた。自宅以外の生活場所の情報がほしい。
指定難病医療受給者証を持っている。(ケアマネジャー)
- A** → 介護医療院・医療療養病床を有する病院について情報提供した。また、指定医療機関の医療療養病床であれば、指定難病医療受給者証が利用できる可能性があることを伝えた。
- Q** → 多系統萎縮症の人が利用できるショートステイを探している。(ケアマネジャー)
- A** → 地域包括ケア病棟が利用可能であることを確認し、相談者へ情報提供した。
- Q** → 言語聴覚士の訓練が受けられる、通所サービスの情報がほしい。(ケアマネジャー)
- A** → 対象者が住む近隣の通所サービスで、言語聴覚士の対応が可能な事業所を伝えた。
- Q** → 送迎が可能な、透析の病院の情報がほしい。(ケアマネジャー)
- A** → 市内の送迎が可能な病院の情報を伝えた。また、車椅子送迎対応の可否についても情報提供した。
- Q** → 本人(妻)の認知症がひどく、疲れている介護者(夫)に対して、何か出来ることはないか。
(ケアマネジャー)
- A** → 夫の相談窓口として男性介護者交流会、認知症カフェへの参加及び個別相談、有償ボランティアと同行外出のサービスを利用すること等を紹介した。



～私のおすすめ～書籍紹介

「ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力」

著者：帚木蓬生(ははきぎ ほうせい・精神科医)

「ネガティブ・ケイパビリティ」という言葉を耳にしたことはありますか？

《書籍から引用》

- ・急がず、焦らず、耐えていく力＝ネガティブ・ケイパビリティ
- ・私たちの人生や社会は、どうにも変えられない、とりつくすべもない事柄に満ち満ちている
- ・せっかちな見せかけの解決ではなく、共感の土台にある負の力がひらく、発展的な深い理解へ

答えが出ないことに耐える力、1つの正解を導き出す力、どちらの大切さも感じる事ができる一冊です。



事務所移転のお知らせ



つむぎの事務所は、浜松医療センター新病院建設に伴い、仮事務所に移転しました。仮事務所の場所は、浜松医療センター健診センター北側になります。

事務所へお越しの際には、事前にご連絡ください。

※T e l ・ F a x ・ M a i l についての変更はありません。

